



横浜市栄区セーフコミュニティ現地審査 プロフィール

審査員

デイル・ハンソン (Dale Hanson)



- 国際セーフコミュニティネットワーク 理事長
- 博士 (公衆衛生)
- クィーンズランド ヘルス (オーストラリア クィーンランド州)
北クィーンズランドへき地医療トレーニング ディレクター
- ジェームズクック大学 公衆衛生学部
熱帯医学・リハビリテーション科学 上級講師 (非常勤)

医療及び外科 (学士)、公衆衛生及び熱帯医療、臨床教育 (修士) における教育と産婦人科、総合診療、重症外傷早期診療、救急治療、小児救命などにおける研究などをバックグラウンドに、外傷予防及び安全向上に関心をもち、マッカイのセーフコミュニティ活動及びオーストラリアセーフコミュニティ財団の発起人の一人としてセーフコミュニティにかかわってきた。

現在は、オーストラリアセーフコミュニティ財団 (セーフコミュニティ支援センター) におけるピア・レビュー (審査の査読) や国外のコミュニティの審査などを行っている。

近年では、韓国、中国などアジアのコミュニティについても認証審査員も務めており、日本における審査は、長野県箕輪町の現地審査 (再認証) に続いて 2 回目となる。

審査員 チョ・ジュンピル (趙 竣秘)



- アジョー大学救急医療部 (韓国水原市) 教授
- 地域安全向上センター (同上) (※) センター長
- 国際セーフコミュニティネットワーク 副理事長
(※) セーフコミュニティ支援センター・
インターナショナルセーフスクール支援・認証センター

1983 年 延世大学医学部卒業後、外科医として経験を重ね、1996 年より救急外科医となる。受傷による救急外来の患者の対応をするなかで、予防の重要性を感じるようになる。その後、アメリカでの研究時代に SC の概念に出会ったことをきっかけに韓国に SC の概念を紹介した。

2000 年に韓国で初めて水原市が SC を導入した際に支援したことをきっかけに、アジョー大学医学部に地域安全向上センター (韓国における SC 支援センター・ISS 支援及び認証センター) を設置した。国内外での取組みが評価され、2010 年 "International Distinguished Safe Community Career Award"を受賞。

国際 SC ネットワークの副理事、アジア地域 SC 支援センター連合の副理事として国内外の SC 推進に尽力している。日本においても、ほとんどの自治体を訪問しており、事前指導や現地指導を通してご支援をいただいている。

日本セーフコミュニティ推進機構

白石 陽子（しらいし ようこ）

博士（政策科学）

- 一般社団法人日本セーフコミュニティ推進機構 代表理事
- アジア地域セーフコミュニティ支援センター連合 事務局長
- セーフコミュニティ公認認証審査員
- 立命館大学衣笠総合研究機構 研究員
- 韓国亜州（アジョー）大学 医学部 客員教授



立命館大学大学院政策科学研究科博士課程後期在学中に安全なまちづくり活動「セーフコミュニティ（SC）」に出会い、研究プロジェクトチームの一員として SC 発祥の地であるスウェーデンのカロリンスカ研究所（医科大学）に派遣され SC について研究する。帰国後は、日本の地方自治体が SC に取組む意義と限界をテーマに研究を進め、博士号を授与される。博士号取得後は、立命館大学、京都大学大学院等で研究を進める。

2011 年には、これまでの SC 活動に関する研究および支援の実績を認められ、セーフコミュニティ支援センターとなる「一般社団法人 セーフコミュニティ推進機構」を立ち上げた。また、同年 12 月には、学校版 SC ともいわれる「インターナショナルセーフスクール（ISS）」の支援・認証センターとしても認証されたことにより、保育所や学校などを中心とする安全な学校づくりの活動の支援と研究も開始した。

2017 年 11 月現在、国内で SC に取組む 16 自治体と ISS に取組む 30 の保育所・小学校・中学校・高等学校を支援しながら、SC および ISS の研究を続けている。

一方、国外については、国際セーフコミュニティネットワークの理事として、また公認認証審査員として SC および ISS 活動の支援および認証審査を行っている。

